

■森丑之助 人類学者。台湾原住民の研究に生涯をかけるも、挫折し、船上から身を投げた。

もりうしのすけ

西南戦争・ 1877 = 京都市五条室町で、森家の次男に生まれる。

明治14年政変1881 = 4歳： 虚弱だったが、兄が夭折したため、嫡男となり、乳母によって大事に育てられるも、

帝国大学始・ 1886 = 9歳：

帝国憲法発布1889 = 12歳： 複雑な家庭の事情に耐えられず、浪人生活に憧れるようになり、

郡司千島探検1893 = 16歳： この頃、長崎商業学校で中国南方官話を学ぶも、

日清戦争始・ 1894 = 17歳： 中退し、

日清戦争終・ 1895 = 18歳： 台湾が日本に割譲されると、陸軍通訳として台湾へ渡り、持参した大金を蕩尽後、三助をやって金稼ぎ、
白馬会・ 1896 = 19歳： *陸軍の調査で、初めて台湾原住民居住地"蕃地"の大?嶽に入り、タイヤル族と接して、好奇心を駆り立てられるとともに、第1回の台湾原住民調査に来島した鳥居龍蔵と出会う。

八幡製鉄始・ 1897 = 20歳： 通訳として太魯閣・木瓜方面へ。この年、伊能嘉矩・粟野伝之丞が全島調査、鳥居龍蔵の第2回調査。

子規句歌革新1898 = 21歳： 鳥居龍蔵の第3回調査に同行して人類学を学び、初めて中央山脈を横断して単独調査、

ピアノ国産化・ 1900 = 23歳： この年、父が死去して、家督を相続。鳥居龍蔵の第4回調査に同行。鳥居の紹介で、東京人類学会に入会し、東京帝大人類学教室教授の坪井正五郎とも、通信を通じて懇切な指導を受ける。短期間に、各民族の言語に精通し、誠意を持って原住民と接する方法で調査を続ける。翌年にかけ、植物学者小西正章に学ぶ。
単身で初めて紅頭嶼に渡り、ヤミの調査を行う。

田中正造直訴1901 = 24歳：

教科書疑獄・ 1902 = 25歳：

日比谷公園・ 1903 = 26歳：

日露戦争始・ 1904 = 27歳：

日露戦争終・ 1905 = 28歳：

満鉄発足・ 1906 = 29歳：

アヲ井 創刊・ 1908 = 31歳：

伊藤博文暗殺1909 = 32歳：

韓国併合・ 1910 = 33歳：

大逆事件判決1911 = 34歳：

明治天皇没・ 1912 = 35歳：

大正政変・ 1913 = 36歳：

第一次大戦始1914 = 37歳：

21ヶ条要求・ 1915 = 38歳：

ロシア革命・ 1917 = 40歳：

大暴落・ 1920 = 43歳：

原敬首相暗殺1921 = 44歳：

水平社結成・ 1922 = 45歳：

関東大震災・ 1923 = 46歳：

護憲三派圧勝1924 = 47歳：

円本時代始・ 1926 = 49歳：

「台湾石器時代遺物発見地名表」、
小西とともに、大阪の第5回国勧業博覧会に出陳する台湾森林地図を作成。

この間、個人的趣味で3年蕃界放浪の旅。

*小西の配慮で台湾総督府殖産局の囑託となり、浪人の身を脱し、以後3年、有用植物の標本採集に参加。

佐久間台湾総督の中南部巡視に一部随行。タルナス族頭目の反撥に遭い恐怖を覚える(大崙坑追殺事件)。

臨時台湾旧慣調査会の囑託になる。台湾総督府殖産局博物館が設けられると、その歴史部門陳列員となる

2年前のタルナス族頭目と親密になる。説得に奔走してきた地理学調査の大探検隊が組織される。

「ばいわん蕃語集」ほか、各蕃語集を出版、台湾統治の日本人には良いテキストとなる。

この年、台湾原住民への徹底弾圧「五箇年計画理蕃事業」始まる。台北で龍子と結婚。花蓮・新城へ赴き、

タイヤル・タロコ勢力との談判に関与。台湾総督府蕃務本署調査課の囑託。長編論文「台湾の?草」発表。

宜蘭に漂着したバタン諸島イトバヤット島民の身体計測および聞き取り調査。鳥居龍蔵とともに調査。「台湾に於ける石器時代の遺跡について」、

三省堂「日本百科大辞典」第六巻が刊行され、執筆した「台湾蕃族」の項目が世に出る。

*蕃務本署調査課の廃止を機に、内地への帰還を決意し、台北で講演後、上京し、講演などの日々を送り、
東京帝大も囑託に迎えるが、公私混同・女性スキャンダルを追及され、

この年、ジェノサイドたる"タロコ討伐"がなされる。臨時台湾旧慣調査会の囑託の誘いにのって、逃げるように、台湾へ戻る。各原住民の神話伝説を続々発表。

日本海軍が占領した南洋群島(ミクロナシア)へ出向く。台湾総督府博物館の新館移転に伴い、担当した台湾原住民関係の展示に新手法。臨時台湾旧慣調査会から、写真集「台湾蕃族図譜(全2巻)」が刊行される。

臨時台湾旧慣調査会から「台湾蕃族志(第1巻)」刊行され、学界に衝撃。長編論文「椰子とその栽培」発表。

この間、原住民弾圧に対する抗日運動が激しくなり、自ら築いてきた友好関係も損なわれ、

台湾旅行に來た作家の佐藤春夫と知り合い、友誼を深める。この年、サラマオ事件が起きる。

関東大震災で、東京にあった台湾原住民関係の資料や未刊原稿などのほとんどが焼失。

台湾原住民の研究に専念するため、総督府博物館を辞職。蕃族志続編を期待する世論を受けた佐久間財団

や大阪毎日新聞社から資金提供を受けるが、夢だった"蕃人楽園"実現への流用企て、スキャンダル化、

初めて巨大な石柱・石壁・石棺を発見後、内地に戻って釈明するも空しく、資金提供を打切られ、台湾に戻る途中、{笠戸丸}から身を投げ、行方不明となった。